

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	物理学						
担当講師	佐藤英一						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

## 授業概要

物理学は難しいと思われがちであるが、医療業務において物理学に関連する知識は必要である。例えばX線の発見は人体の透視という画期的な診断法をもたらした。このように医療技術の原理は物理学に基づいていることが多い。よって本科目では、医療に役立つ医学物理の基本概念を習得する。

## 学修到達目標

1. 距離、速度、加速度の関係を式で表し、説明できる。
2. 簡単な流体力学を式を用いて説明できる。
3. 熱力学の諸法則を式を用いて表し、解説できる。
4. 音の波長、速度、振動数を式で表し、説明できる。
5. 簡単な直流回路と交流回路を図示し、電圧、電流、抵抗、インピーダンスなどを計算できる。
6.  $\alpha$ ・ $\beta$ ・ $\gamma$ ・X線、放射線量の単位などを説明できる。

## 授業計画

- |     |           |
|-----|-----------|
| 第1回 | 単位系と物体の運動 |
| 第2回 | 力と加速度     |
| 第3回 | 仕事とエネルギー  |
| 第4回 | 流体        |
| 第5回 | 熱         |
| 第6回 | 波動        |
| 第7回 | 電気と磁気     |
| 第8回 | 放射線       |

## 評価方法

筆記試験（100%）

## 教科書

系統看護学講座 物理学（医学書院）

## 参考図書・文献

医歯系の物理学（東京教学社）

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義前にシラバスにある講義内容を調べ、次のURLから資料をダウンロードし、可能な限り事前学修を行う。  
<http://raysinc.jp/e-learning.pdf>

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	化学						
担当講師	吉田潤						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

## 授業概要

化学は、物質の構造、性質、変化等を直接取り扱う学問である。  
本講義では化学の基本的な概念、原理、法則等を力明すると同時に、物質の化学的性質を理解する。

## 学修到達目標

1. 化学変化を化学反応式で記述できる。
2. 物質量の概念を理解し、化学計算ができる。
3. 化学結合の種類を列挙し、その相違点について説明できる。
4. 酸・塩基の定義について説明できる。
5. 化学平衡の状態について記述できる。
6. 基本的な有機化合物を列挙し、その構造と性質の特徴について説明できる。

## 授業計画

- |     |                         |
|-----|-------------------------|
| 第1回 | 化学の歴史と化学を学修する意義         |
| 第2回 | 物質の構成粒子(原子、電子配置、元素の周期表) |
| 第3回 | 化学結合(イオン結合、共有結合、金属結合)   |
| 第4回 | 化学反応と化学量論(化学式、化学反応式)    |
| 第5回 | 化学反応と物質量(原子量、分子量、式量)    |
| 第6回 | 酸と塩基                    |
| 第7回 | 化学平衡                    |
| 第8回 | 有機化合物                   |

## 評価方法

定期試験(筆記試験)の結果(90%)および講義の受講態度(10%)により総合的に評価する。

## 教科書

コ・メディカル化学(改訂版)－医療・看護系のための基礎化学－ (裳華房)

## 参考図書・文献

スミス基礎化学 (東京化学同人)

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

専門教科を学ぶ上で基礎となる化学の基本事項を身につけることを目標として講義に臨むこと。  
予習：各授業における教科書の関連箇所を事前に通読する。  
復習：授業で扱った練習問題を再度解く。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	生物学						
担当講師	松政正俊						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

## 授業概要

医学・理学療法学・作業療法学の基礎や臨床を深く学ぶためには、生物学の知識や考え方を身につけることが要求されます。本科目では、初学者に必要な知識を習得しつつ、さまざまな生物学的現象の関連や共通性、あるいは多様性を認識し、生命現象への理解を深めます。

## 学修到達目標

1. 生命の特質を列挙できる
2. 生物としてのヒトの特徴を列挙できる
3. 骨の肉眼的および顕微鏡的なつくりを説明し、骨の役割を列挙できる
4. 筋の肉眼的および顕微鏡的なつくりを説明し、筋の役割を列挙できる
5. 四大栄養素の代謝を概説できる
6. 遺伝情報の伝達のしくみとメンデル遺伝を説明できる
7. ホルモンと自律神経系による恒常性維持のしくみを例をあげて説明できる

## 授業計画

- |     |                        |
|-----|------------------------|
| 第1回 | 生命とは？／生物としてのヒトの特徴      |
| 第2回 | ヒトを含む動物の身体：発生と細胞・組織・器官 |
| 第3回 | 骨のつくりと役割               |
| 第4回 | 筋のつくりと役割               |
| 第5回 | 栄養と代謝：エネルギーと物質の流れ      |
| 第6回 | 遺伝情報の伝達と発現             |
| 第7回 | 恒常性維持のしくみ：ホルモンと自律神経系   |
| 第8回 | 環境とヒト                  |

## 評価方法

知識、理解度、問題解決能力を主に定期試験（70％）で、態度、解析力、論理性等を主にレスポンスカード（30％）によって評価する。

## 教科書

「ワークブック ヒトの生物学」八杉貞雄 著 裳華房。適宜プリント等も教材として配布。

## 参考図書・文献

「ヒトを理解するための生物学」 八杉貞雄 著 裳華房

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

初回は生命の特徴とは何か考えてくること。復習は各回1時間程度、予習は2回目以降30分程度は必要。講義では質疑応答を多く取り入れます。ノートテイキングは必須。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	心理学						
担当講師	山崎 剛信						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

## 授業概要

心の科学である心理学の基礎を学ぶ。感覚・知覚、記憶、動機づけ、パーソナリティ、集団の性質などを医療現場で起こりうる問題とも関連付けながら学び、人間行動を深く理解できるようにします。

## 学修到達目標

心理学の基礎を学ぶことで、医療現場で展開される個人、集団の心の働き・行動について深い理解ができるようになり、そこで生じる様々な問題の解決を行えるようになることを目指します。

## 授 業 計 画

- 第1回 感覚
- 第2回 知覚
- 第3回 記憶
- 第4回 学習
- 第5回 感情・動機
- 第6回 パーソナリティ
- 第7回 知能
- 第8回 対人コミュニケーションの心理
- 第9回 社会・組織・集団 (1)
- 第10回 社会・組織・集団 (2)
- 第11回 ストレスと健康 (1)
- 第12回 ストレスと健康 (2)
- 第13回 患者の理解
- 第14回 医療職者の理解
- 第15回 まとめ

## 評価方法

筆記試験 (50%) レポート (50%)

## 教科書

なし

## 参考図書・文献

授業中適宜紹介する

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

授業は日常で起こることを題材にする。普段から人間に感心を持ち、よく観察すること、書き物や映画、音楽などから人間について知ることも大切である。特に大量の読書を期待する。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	教育学						
担当講師	高田 麻美						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

## 授業概要

理学療法士・作業療法士は、対象者に対する専門的介入に加え、患者教育や実習生指導などの教育的役割を担います。本科目では教育学の基礎的知見に基づき、発達理解や多様性への配慮を踏まえた支援の視点と、医療現場における倫理的判断力を養います。

## 学修到達目標

- ・教育学の知見に基づき、合意形成の意義と多様性の理解を深めつつ、支援相手に適した教育的支援のあり方を考える。
- ・医療倫理の諸課題を多角的に考察し、対話的学びを通して支援の本質を問い続ける姿勢を身につける。

## 授 業 計 画

- 第1回 オリエンテーション、教育学の基礎(1)
- 第2回 教育学の基礎(2)
- 第3回 教育学の基礎(3)
- 第4回 教育学の基礎(4)
- 第5回 教育者に求められる資質(1)
- 第6回 教育者に求められる資質(2)
- 第7回 教育者に求められる資質(3)
- 第8回 教育者に求められる資質(4)
- 第9回 教育者に求められる資質(5)
- 第10回 倫理的課題を考える(1)
- 第11回 倫理的課題を考える(2)
- 第12回 個人調査(1)
- 第13回 個人調査(2)
- 第14回 ミニ発表会と振り返り
- 第15回 総括

## 評価方法

毎回の小レポート(30%)、グループ発表の内容と参加貢献度(30%)、期末レポート(40%)

## 教科書

なし

## 参考図書・文献

藤田由美子・谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理 第二版』学文社、2022年

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

- ・書き込み式の授業資料を配布しますので、ノート等は不要です。授業資料のファイリングをお願いします。
- ・個人調査のなかでパソコンやタブレットを使用することがあります。
- ・担当教員は非常勤講師のため、授業に関する質問等は、授業前またはメールにてご相談ください。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	人間工学						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

## 授業概要

1. 人間工学の概念について学修します。
2. 理学療法と人間工学の関係性について学修します。
3. 自身の生活環境を元に人間工学的視点に立った検討を行います。
4. 人間工学的な視点に立った理学療法機器の活用を検討します。

## 学修到達目標

1. 人間工学の概念について説明できる。
2. 理学療法と人間工学の関係性について説明できる。
3. 理学療法士が触れる様々な要素について人間工学的視点に立った考察ができる。

## 授業計画

- |      |                 |
|------|-----------------|
| 第1回  | 人間工学とは①         |
| 第2回  | 人間工学とは②         |
| 第3回  | 人間工学に必要な基礎知識    |
| 第4回  | 人間工学と理学療法①      |
| 第5回  | 人間工学と理学療法②      |
| 第6回  | 自身の環境と人間工学的考察①  |
| 第7回  | 自身の環境と人間工学的考察②  |
| 第8回  | 自身の環境と人間工学的考察③  |
| 第9回  | 理学療法機器と人間工学的考察① |
| 第10回 | 理学療法機器と人間工学的考察② |
| 第11回 | 理学療法機器と人間工学的考察③ |
| 第12回 | 生活と人間工学的考察①     |
| 第13回 | 生活と人間工学的考察②     |
| 第14回 | 生活と人間工学的考察③     |
| 第15回 | ユニバーサルデザイン      |

## 評価方法

筆記試験50%・レポート50%

## 教科書

プリント教材

## 参考図書・文献

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

自身の身の回りに存在する様々なものや理学療法機器との関係性について学修します。日頃から工学などに興味を持って、新聞や文献に目を通してください。

科目名	道徳						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設・介護保険関連施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

### 授業概要

道徳的規範、モラルを理解するための知識・思考を習得し、自分がどのような心づかいでどのように行動すれば他者とのより良い関係を築けるかを学びます。

### 学修到達目標

1. 道徳的規範、モラルについて説明できる。
2. 道徳的規範、モラルを理解したうえで自律した行動ができる。

### 授 業 計 画

- |     |                            |
|-----|----------------------------|
| 第1回 | 道徳の概念と必要性                  |
| 第2回 | 常識とは何かを考える                 |
| 第3回 | 道徳的判断力にもとづいた行動             |
| 第4回 | 人間関係をゆたかに-対話とマナーについて       |
| 第5回 | 道徳と倫理                      |
| 第6回 | 患者と道徳について                  |
| 第7回 | 医療倫理について                   |
| 第8回 | ケーススタディとディスカッション～生命の尊厳について |

### 評価方法

筆記試験

### 教科書

必要に応じて資料配布

### 参考図書・文献

特になし

### 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	人間関係論						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士，理学療法士，介護支援専門員，病院・介護施設等での実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

## 授業概要

私たちは理学療法士としての医療人である前に、一人の人間として社会の中で生活しています。その置かれている状況は一人一人異なります（学生、社会人、家庭人等）が、どのような状況であっても、そこには大なり小なりの人間関係があります。一人の人間として、また一人の理学療法士として、どのような人間関係を築き、患者さんとの信頼関係をどのように築いていくか、その基本的なことを学んでいきます。

## 学修到達目標

1. 良好な人間関係形成のための仕組みを理解する。
2. 社会人基礎力を理解する。
3. 対人援助職としての自覚を持ち、さまざまな観点で人間関係を考え、気づきの力を身につける。
4. 医療従事者として必要なコミュニケーションスキルを身につける。

## 授業計画

- |      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 第1回  | 人間関係の定義 コミュニケーションの定義 コミュニケーションの基本原則 |
| 第2回  | 自分を知る：演習を含む                         |
| 第3回  | 自律するー1：自己管理、自己実現等                   |
| 第4回  | 自律するー2：生活習慣を見直す 他                   |
| 第5回  | 自律するー3：医療従事者になるための準備                |
| 第6回  | 社会人基礎力1                             |
| 第7回  | 社会人基礎力2                             |
| 第8回  | ビジネスマナー1                            |
| 第9回  | ビジネスマナー2                            |
| 第10回 | ビジネスマナー3                            |
| 第11回 | 振り返り                                |
| 第12回 | ソーシャルワーク1：ソーシャルワークのグローバル定義等         |
| 第13回 | ソーシャルワーク2：相談面接技術 バイステックの7原則 他       |
| 第14回 | ソーシャルワーク3                           |
| 第15回 | コミュニケーションの役割、基本的技法と応用的技法            |

## 評価方法

筆記試験（50%）、実技試験（30%）、積極的参加と参加態度（20%）

## 教科書

必要に応じて資料配布

## 参考図書・文献

理学療法コミュニケーション論(医歯薬出版社) PT/OTのためのコミュニケーション実践ガイド(医学書院)

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	社会学						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護保険関連施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

## 授業概要

1. 一般的な社会学の概念について学修します。
2. 地域文化や地域社会の変遷・現状について学修します。
3. 医療と福祉、理学療法士の役割について社会的見地から学修します。

## 学修到達目標

1. 一般的な社会学の概念について説明できる。
2. 地域文化や地域社会の変遷・現状について興味を持ち、考察することができる。
3. 地域社会における理学療法士の役割を社会的見地に立って説明できる。

## 授業計画

- |     |   |
|-----|---|
| 第1回 | 社会学とは一社会の構成と基本的概念・フィールドワークの手法           |
| 第2回 | 社会の変遷と地域文化について①日本人の死生感・通過儀礼・現代社会における看取り |
| 第3回 | 社会の変遷と地域文化について②年中行事                     |
| 第4回 | 医療福祉と社会の連携・理学療法士の役割                     |
| 第5回 | 地域調査演習①                                 |
| 第6回 | 地域調査演習②                                 |
| 第7回 | 地域調査演習③                                 |
| 第8回 | まとめ                                     |

## 評価方法

筆記試験

## 教科書

必要に応じて資料配付

## 参考図書・文献

特になし

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

## 【基礎分野】

## 【理学療法学科】

科目名	英語						
担当講師	ワン フィリン						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

## 授業概要

This course aims to help first-year students get used to English for medical situations using intermediate-level medical English found in the course textbook. The course will be conducted mostly in English, and the project report and written examination will also be in English only.

## 学修到達目標

- 1) Students would have learned and be able to remember many medical English words, phrases and sentences often used in medical situations in Japan.
- 2) Students would have read about different medical scenes and events that usually happen in a Japanese hospital setting and be able to understand the English conversations and phrases required in these situations.
- 3) Students would be able to apply these information learned into a group work project and be able to answer questions regarding these information in a written test.

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | Course introduction, Self-introduction exercise, Coffee Break 1, Essay 1.                |
| 第2回  | Unit 1: Meeting Patients   |
| 第3回  | Unit 2: Taking a Medical History   |
| 第4回  | Unit 3: Assessing Patients' Symptoms   |
| 第5回  | Unit 4: Taking Vital Signs   |
| 第6回  | Coffee Break 2, Essay 2, Body Parts: External, Body Parts: Internal                      |
| 第7回  | Unit 5: Taking a Specimen  |
| 第8回  | Unit 6: Conducting Medical Examinations  |
| 第9回  | Coffee Break 3, Essay 3, Project details and preparation, confirmation of group members. |
| 第10回 | Unit 7: Assessing Pain   |
| 第11回 | Unit 8: Advising about Medication  |
| 第12回 | Unit 9: Improving Patients' Mobility   |
| 第13回 | Unit 10: Maintaining a Good Diet   |
| 第14回 | Unit 11: Caring for Inpatients (Deadline for project submission)                         |
| 第15回 | Unit 12: Coping with Emergencies   |

## 評価方法

- (1) プロジェクト (50%) (2) 期末試験 (記述・選択) (50%)

## 教科書

Caring for People (Authors: Michiko Mayuzumi, Tamiko Miyatsu & Philip Hinder)  
(Publisher: Cengage Learning)

## 参考図書・文献

取り上げるテーマに関連する図書・文献については、必要であれば都度紹介をします。

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

Students should refer to the lecture plan above closely, revise the course textbook before and after every class, and listen to the downloadable audio in their own time where possible. Students should work with their coursemates, check their own understanding of the English lessons and ask questions whenever necessary.

## 【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	体育 I						
担当講師	畠山健 三浦拓朗						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	60	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

## 授業概要

パラスポーツは障がいのある方々の社会参加のツールから、現在は障がいのある人もない人も共に楽しむ機会を作り出す共生社会推進のツールとしての考えに変化している。このことについて講義や実技を通して理解を深める。

## 学修到達目標

1. 健康と運動・スポーツの関わりを理解する。安全で効果的な運動・スポーツの実践方法を理解する。実技を通して生涯スポーツの獲得を目指すとともに遵法精神の涵養をはかる。
2. パラスポーツの目的・意義などについて理解できる。
3. パラスポーツを活用した簡易的な事業を企画・実施できる。

## 授 業 計 画

第1回	第1回から第15回は、以下の内容をローテーションで行う。	畠山健
第2回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第3回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第4回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第5回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第6回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第7回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第8回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第9回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第10回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第11回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第12回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第13回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第14回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第15回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山健
第16回	パラスポーツの概要(講義)	三浦拓朗
第17回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第18回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第19回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第20回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第21回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第22回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第23回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第24回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第25回	パラスポーツの実技(卓球バレー他)	三浦拓朗
第26回	卓球/バレーの大会運営と交流	三浦拓朗
第27回	卓球/バレーの大会運営と交流	三浦拓朗
第28回	卓球/バレーの大会運営と交流	三浦拓朗
第29回	卓球/バレーの大会運営と交流	三浦拓朗
第30回	全体の振り返り(講義)	三浦拓朗

## 評価方法

畠山健範囲(実技の関心・意欲・態度40%、技能・知識・理解10%)と三浦拓朗範囲(授業内容の理解度(関心・意欲)とレポート)の総合で評価する。

## 教科書

必要に応じてプリントを配布する。

## 参考図書・文献

パラスポーツ(公益財団法人日本パラスポーツ協会HP等)

## 履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

スポーツを楽しむを理解し、障がいの有無や年齢、性別に関わらず、多様な参加者へのプログラム展開について考える機会としてほしい。